第２回とちぎ農業女子トーク＆カフェの結果概要

１　日　時　令和4(2022)年10月５日(水)　13:30～15:20

２　場　所　ミナテラスとちぎ・キッチンスタジオ

３　出席者（敬称略）

コーディネーター：山口あや

女性農業者：横山玲子、西岡智子、小林千歩、佐藤佑子

消費者・他産業事業者：鈴木美愉、竹澤尚美、小林拓馬

４　テーマ　女性の農業参画を進めるには

５　主な意見等

第１回で出された課題への具体的な取組について、フリートークを実施した。

【情報発信】

・栃木県は就農環境に恵まれている。他県と比較して、女性農業者への支援が手厚く、農業女子ネットワークもできている。

・小学校の農業体験は重要。小学校単位で農場を用意して体験プログラムを組んではどうか。農場は、４Ｈクラブや農業女子を中心に管理運営できると思う。小学生が育てた農産物を学校給食に使ったり、販売することで、食への理解や流通の仕組みも勉強できる。

・小学校もカリキュラムに余裕がなく、総合学習に取り入れともらうのは困難。オンライン体験は移動時間が省略でき、一部実物を教室に用意することでリアルと同等の体験機会をつくることも可能。GIGAスクール構想で１人１台タブレットを持っているので、学校も取り入れやすい。

【人材確保・育成】

・農業の支援策は、国、県、市町、JAなど幅広くあるが、バラバラに発信しているため、事後で知ることも多いので、支援情報を一元化して欲しい。

・女性は結婚を機に農業を始めるケースが多い。東京圏在住の女性で田舎暮らしのニーズもあるので、独身男性とうまく結びつけられるとよい。嫁姑問題のイメージがあるが、親と別部門の経営なら気にならない。

・半農半Ｘのニーズは増えていくと思う。益子町の「農の学校」のような、気軽に参加できる研修制度（月２回程度）が増えると取り組みやすい。

・移住の場合、特に女性は地域への溶け込みに不安を持っており、地域で活躍している農業女子に早い段階から相談できるとよい。
・援農は、いちごの場合、デリケートな作業も多いのでボランティアには任せられない。雇用管理が重要。他産業に負けない給与を支払い、それでも稼げる経営にしていく必要がある。

【働きやすい環境づくり】
・女性が定着するには、労働環境の整備は不可欠。更衣室やトイレ、シャワーなどの整備は企業努力だけでは困難で、行政の支援が必要。
・農業は子育てとの両立に向いていると思う。特別な支援は不要。
・男女共同参画は家庭からつくっていくもの。農業や生活の両方でよく話し合い、お互いに理解し合うことが重要。
・ロールモデルとなる女性農業者が県内には数多くいるので、情報発信を強化して知　ってもらうことが、男女共同参画につながる。
・女性活躍だけでなく、農業分野でも LGBT など先の課題にも率先して取り組むことも必要。

→　全２回出だされた意見やアンケート結果を踏まえて、報告書にまとめていく